

## 今後の栄養クリニックのあり方

この一年間学科主任として栄養クリニックの専門会議に参加する機会を得ました。この間の感想も含め、将来の当クリニックのあり方について考えたことを記しておきます。ただし立場上、クリニックの活動に自分自身が直接関与することは出来ませんので、皆様の活躍を横目で眺めた立場からの発言であることを初めにお断りします。

今年度は、学園の創立100周年ということもあって様々なイベントが目白押しでした。その詳細はそれぞれの報告をご覧くださいととして、専門会議での各イベントの準備段階での議論を聞かせていただいて、なんとまあ良く細かい所まで心配りをするものだ、と感心して聞いておりました。栄養相談に来られる方の多様な疑問や要望に応えるための心遣いは、行動変容を促す手法にも通じるものなのかと、勝手に想像していました。

多くのイベントは休日などに開催され、多数のクライアントに同時に対応する必要があります。このために、クリニックのスタッフ以外に本学科の実験助手やラボラトリースタッフの応援、さらに多くの学生ボランティアの支援によってイベントを遂行してゆくことになります。学生の場合は、栄養クリニックの活動目的である院生や学生に対する教育活動の一環でもあります。しかし、今後さらにクリニックの活動を活性化し、活動の輪を広げてゆくには、現在の体制ではいずれ立ち行かなくなるのは目に見えています。イベントなど一時に多数の栄養指導員が必要な時に、どのようにしたら、優秀な支援スタッフを確保できるのでしょうか。答えは卒業生をおいて他にありません。

幸いなことに、本学科からは毎年100名を越す管理栄養士が巣立ってゆきます。その半数近くは資格を活かした職場で訓練を積み、プロの管理栄養士へと成長してゆきます。実際、関西一円において多くの経験を積んだ優秀な卒業生が活躍しています。これらの卒業生に、空いた時間を利用して母校の栄養クリニックに来て貰いましょう。そして、それぞれの職場で培った栄養指導の技を披露してもらいましょう。母校に来て旧交を温めるだけでなく、クリニックにおける栄養指導活動を通じて互いに切磋琢磨し、さらに腕を上げてもらうことも出来ます。

当クリニックが手本とする女子栄養大の栄養クリニックでは、職場経験を積んだ卒業生が認定栄養指導員として登録されており、イベント開催の場合などには多数駆けつけてイベントを切り盛りするそうです。本学においても早急にこのような卒業生による支援体制を整えてゆくことが必要でしょう。また、これは同時に生涯学習支援体制としても活用されるものです。このような体制を確立してこそ、更なる栄養クリニックの発展が見えてくるものと信じております。

食物栄養学科 主任

土 居 幸 雄